平成２９年度 中小企業団体等との意見交換会について

日　時：平成２９年８月３１日（木）　１４：００～１６：２０
場　所：北九州市　本庁舎　特別会議室Ａ（５階）
出席者：アドバイザー１名（大学教授）、中小企業団体４名、中小・小規模企業４名、金融機関、大学、労働団体（当日欠席）各１名、ＦＡＩＳ、北九州市

１　次　第

〇開会あいさつ、出席者紹介及び産業経済局長挨拶
〇会議の趣旨説明及び本市の中小・小規模企業振興に係る取組（事務局より説明）
〇中小企業振興にかかる取組及び課題について（各参加者等より発表）
・議題１　生産性改革（ＩＴの活用など）
株式会社ネオマルス 経営企画室副室長の講演
・議題２　人材確保（地元就職促進など）
北九州市立大学の発表
〇フリーディスカッション、アドバイザーの意見

２　参加者の講演（発表）内容及び主な意見

【議題１　生産性改革（ＩＴの活用など）】

・ＩＴを活用して、業務の見える化、標準化・効率化を進めることで、作業の手間・時間の大幅な削減につなげるとともに、そのノウハウを外販するなどして新たなビジネスチャンスにつなげた。
・ＩＴ化を進めていくためには、ＩＴ技術に強い人と現場のことが良く分かっている人がお互い意見を出し合い、ニーズに沿ったアイデアを出していく必要がある。
・お客さんの困った、大変だというところを、ＩＴというものを使いながら知恵をひねると、それが解決に向かう、課題解決につながる。
・顧客に近い中小企業には、逆にビジネスチャンスが到来しているのではないかと感じている。
・コンピューターとかＩＴは、小さな会社でも知恵をひねって汗をかいて少しずつやっていけばできる。
・ＩＴの活用は、最初は行き当たりばったりで、トライアンドエラーの繰り返しの中で、日々進化させていく必要がある。
・以前、営業管理ソフトを社内に導入したが、会社のニーズに沿ったものではなく、かえって分析が増えるなど作業が増えてしまい、結果として失敗した。本当に活用する欲しいデータは何かということから、システムもシンプルにする必要がある。
・製造現場では、現場の整理整頓、あるいは作業の平準化などがしっかりできて、初めてＩｏＴを導入して十分な効果が出るのではないか。
・ＩＴ助成金などの情報を、それを必要とする人たちにいかに提供して、その人たちがアクションを取れるようにすることがとても大切である。

・業務の改善に努めて無駄な時間を省いて、その時間をいかにお客様のために使い、サービス向上につなげるのかということを本気で模索しようという段階にある。
・何をしたいかというところがはっきりしないまま、ＩＴならいけるかなといって失敗する。不屈でやり直すと何とかなるが、１回失敗するとやけどがひどくなってみたいなところがある。
・成功事例をそのままねしても駄目ということは感じる。センスが必要。情報の処理の仕方とか処理能力とかをよくよく考えながら、そこに合ったことを工夫する。
・労働生産性だけを議論するのではなく、いかに魅力ある仕事づくりをこの北九州でつくり広げていくのかというのが、大きな課題である。
・ＩＴ化も確かに必要で不可欠なものだと思うが、やはり現場をよく知っている方の意見を吸い上げて、全員で共有することが前段階として必要である。

【議題２　人材確保（地元就職促進など）】
・平成２５年から始まった「ＣＯＣ＋事業」では、「就職ワークカフェ」、「北九州の魅力再発見ツアーの企画」、「学生による地元企業の業界マップの作成」などの取組を通じて、学生と地域企業との交流・学習・体験の機会を提供している。
北九州への愛着を持っていただいて、地元の企業を認知してもらって、就業力をアップしたうえで地元に送り出していこうという流れで大きく考えている。
・地元にどんな企業があるのかを学生、教員も含めてあまりよく知らないのが大学の現状。一方、企業の方は、どんな魅力があるのかということを伝えられていない。
・「北九州で頑張って働いていれば、こんな自分が実現できますよ」みたいな具体的な姿が提示できるような教育が大学で出来れば随分違うと思う。
・学生の就職の意思決定における代替案（北九州の地域企業）をきちんと増やしてあげる、充実させてあげることが必要である。結果として、東京、大阪、海外に行くにしても、それと北九州の企業をきちんと比べたうえで、意思決定ができるような教育をしていくべきである。
・世間体や親の話などに影響されて、一度大企業に勤めた学生がそこを辞めて再就職する場合は、地元企業を選ぶことが結構多い。このきっかけになっているのが、インターンシップで地元にこんな企業があったという経験である。地元企業も、すぐには就職に結びつかないにしても、何年か後に地元に戻って就職したいという学生は確かにいるという長い目で見ていただきたい。
・魚町の商店街の中に「北九州まなびとＥＳＤステーション」が来ていただいて、北九州の１０校の大学の学生が、まちづくり活動などを商店街の人達と一緒にして、地元に対する思いを育てていただいている。
・また、「地域起業型インターンシップ・プログラム」という、学生が自腹でお金を出して、何かしら事業をやってその成果を発表するというプログラムをやっている。
実際に就職しないで、商店街の中で起業して十分にやっている方もいらっしゃるので、こういう方をどんどん増やしていきたいと思う。

・求人を出すにあたって、うちに来たら何をすればいいかが分かるような詳しい情報を分かりやすく出す工夫をしたところ、北九州市外の下関、中間、福津、行橋などから応募がくるようになった。
本当に人が欲しければ、自ら取りにいくという姿勢を明確にして、いろいろなところにアプローチをかけていくことが、生き残っていく上で重要である。
・実は学生も地元で就職したいということが圧倒的に多いが、中小企業の学校側、父兄さんに対するＰＲが足りていない。５年、１０年かけて学校とのパイプや地元の光る企業、いい企業を紹介できる形をつくりたい。
・文系は、ゼミ単位でインターンシップみたいなことをすると、会社の社長と懇意になるので、学生を紹介しやすくなる。
・次世代の人を育てていくという観点から、高校生の地元密着の活動を何らかの形でサポートできないかということで、高校生の職場体験を実施している。
・市の補助金を活用して、中小企業団体として、企業の魅力発信を行っているが、大学生に職場を見学していただいて、改善点をプレゼン発表してもらい、その内容を活かしていくという取組を行っている。
・１社では聞く耳を持たないような学校も、団体なら数多くの企業と関係ができるということで、先生たちに興味をもってもらえるようになった。
・ＫＩＧＳで小学校４年生から６年生を対象に、団体の関連企業で連携してオリジナルの工作キットを提供して、ものづくりの魅力を知っていただく取組を行っている。このような活動を通じて、学校の先生から、インターンシップや職場体験を受け入れられないかという話をいただくようになった。
・人材確保のため、事務職から営業職への転換といった社内における人材の活用、生産ラインに主婦を活用するといった新たな取組を行っている。
・高校生、大学生に地元企業の魅力、あるいは仕事の魅力をいかに伝えていくかが大きな課題である。
・自分の会社の魅力を伝えるときに、外部の人の目というのがすごく大事なのではないか。

【事務局（まとめ)】
・今回の意見を参考に、中小企業・小規模企業者の振興を図るための施策を適宜実施してまいりたい。
・また、各団体においても、本日のご意見等を基に、色々な取組みを進めていただきたい。
・ご要望、ご意見があれば、中小企業振興課まで連絡いただければ一緒に取り組ませていただきたい。